



日本地球化学会ニュース

No. 209 June 2012

Contents

年会のお知らせ.....	2
2012年年度日本地球化学会年会のお知らせ	
学会からのお知らせ.....	3
第7回日本地球化学会ショートコース2012	
2012年度第2回鳥居基金助成の募集	
評議員会議事録.....	5
2012年第1回日本地球化学会評議員会議事録	

年会のお知らせ

2012年度日本地球化学会年会のお知らせ

主催：日本地球化学会

会期：平成24年9月11日(火)～13日(木)

会場：九州大学箱崎キャンパス文系地区

年会web site：<http://www.wdc-jp.biz/geochem/2012/>

交通：福岡市営地下鉄箱崎九大前より徒歩5分
アクセスについては、下記のサイトを参照下さい。

<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/index.php>
(福岡空港、博多駅からの経路)

<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/map/hakozaki/hakozaki.html> (キャンパス内地図)

内容：口頭発表及びポスター発表、学会賞記念講演、総会、懇親会。関連イベントとして、市民講演会、ショートコース、巡検も開催します。

講演セッション：6の特別セッション、17の学会基盤セッションがエントリーされています。

講演申込、講演要旨原稿受付：昨年度と同様に、同時に行います。要旨提出を行わないと講演申込は完了しません。年会サイトからのみ受け付けます。

6月13日(水) 14時受付開始。7月17日(火) 14時締切。講演要旨の書き方は、上記年会サイトをご覧ください。年会サイトからの申込が困難な場合は、下記の年会事務局あてに締切の1週間前までにご連絡下さい。なお、投稿する要旨の原稿は締切日までは修正可能ですが、締切日を過ぎた後は一切修正できず、そのままJ-STAGEで公開されます。

参加予約申込：年会サイトから、指示に従って申し込んで下さい。6月13日(水) 14時受付開始。8月24日(金) 14時締切(割引料金が適用されます)。それ以降は、当日申し込み下さい。

プログラムの公表：プログラムは講演要旨申込終了後直ちに作成し、8月上旬に年会サイト上に公開します。事前に要旨集の配付を行いませんので、プログラムの確認は年会サイトで行って下さい。8月末頃に配付される地球化学ニュースにもプログラムを掲載します。なお、講演要旨は8月末頃に、J-STAGE上で公開されます。

参加登録費(講演要旨集1部含む)：

予約：一般会員5,000円、学生会員1,000円、
会員外7,000円、会員外学生3,000円

当日：一般会員6,000円、学生会員3,000円、
会員外7,000円、会員外学生4,000円

*なお、会員は日本地球化学会及び共催学会(年会サイトで御確認下さい)の会員を指します。当日受付で入会された方も会員扱いとします。学部生は無料(但し要旨集なし)。

懇親会：9月12日(水) 学会賞等受賞講演終了後、記念講堂中央食堂(箱崎キャンパス)にて。

予約5,000円(学生2,000円)、当日6,000円(学生3,000円)。

予約申込による参加登録費・懇親会会費・講演要旨集代金の支払い方法：これらのお支払いは、年会サイトから、クレジットカードによるオンライン決済でお願いします。なお、各種の支払いは代理で行うことも可能です。クレジットカードによるお支払いが困難な場合は、年会事務局に締め切りの1週間前までにお知らせ下さい。年会当日の参加登録費のお支払いは現金となります。領収書を必要とする場合は、年会当日に受付にお申し出下さい。

併設展示：関連機器メーカーその他による展示会を併設する予定です。詳細については年会サイトをご覧ください。年会事務局にお問い合わせ下さい。

小集会：学会期間中の昼食時間、あるいは講演終了後に小集会を行うことができます。希望のあるグループは年会事務局に問い合わせして下さい。

セッションテーマ：各セッションの概要については、年会サイトをご覧ください。

〈特別セッション〉

- S1 東アジアの環境と地球化学
石橋純一郎(九州大)、宇都宮聡(九州大)
- S2 水-岩石相互作用：水質形成～CO₂地中貯留
上田晃(富山大)、鹿園直建(慶応大)、徂徠正夫(産総研)
- S3 二酸化炭素隔離の地球化学
大隅多加志(電中研)、水谷広(日本大)、下島公紀(九州大)、徂徠正夫(産総研)
- S4 ケイ酸およびケイ酸錯体の地球化学
横山拓史(九州大)、赤木右(九州大)
- S5 生物起源 VOC と有機エアロゾル
河村公隆(北海道大)、横内陽子(国環研)、今村隆史(国環研)、谷晃(静大)、梶井克純(京都大)、宮崎雄三(北海道大)
- S6 地球化学と生理学・生化学：生理学的知見から

みる地球化学

沢田健 (北海道大), 力石嘉人 (JAMSTEC),
中村英人 (北海道大)

〈学会基盤セッション〉

- G1 大気微量成分の地球化学
谷本浩志 (国環研), 豊田栄 (東工大), 松本潔
(山梨大), 持田陸宏 (名古屋大), 角皆潤 (名
古屋大)
- G2 古気候・古環境解析の地球化学
入野智久 (北海道大), 渡邊剛 (北海道大), 中
塚武 (名古屋大), 横山祐典 (東京大), 原田尚
美 (JAMSTEC)
- G3 放射性廃棄物と地球化学
日高洋 (広島大), 大貫敏彦 (JAEA), 吉田英
一 (名古屋大), 河田陽介 (三菱マテリアル)
- G4 鉱物境界面の地球化学, 水-岩石相互作用
高橋嘉夫 (広島大), 福士圭介 (金沢大), 斉藤
拓巳 (東京大)
- G5 海洋における微量元素・同位体
小畑元 (東京大), 張 勁 (富山大), 宗林由樹
(京都大)
- G6 炭化水素資源の地球化学・深部炭素循環
早稲田周 (石油資源開発), 坂田将 (産総研),
鈴木徳行 (北海道大), 佐野有司 (東京大)
- G7 地球表層水圏と生態系
丸岡照幸 (筑波大), 和田茂樹 (筑波大), 瀬戸
繭美 (奈良女大), 益田晴恵 (大阪市大)
- G8 マントル物質の化学とダイナミクス
下田玄 (産総研), 鈴木勝彦 (JAMSTEC), 小
木曾哲 (京都大), 石川晃 (東京大)
- G9 地球外物質・宇宙惑星化学
坂本尚義 (北海道大), 若木重行 (北海道大),
馬上謙一 (北海道大)
- G10 同位体効果研究の地球化学への応用
武蔵正明 (首都大), 大井隆夫 (上智大), 野村
雅夫 (東工大), 谷水雅治 (JAMSTEC)
- G11 現世および過去の有機物・微生物・生態系の地
球化学
川幡穂高 (東京大), 奈良岡浩 (九州大), 山本
正伸 (北海道大), 高野淑識 (JAMSTEC)
- G12 水圏環境化学
板井啓明 (愛媛大), 坂田昌弘 (静岡県大), 太田
充恒 (産総研), 高橋嘉夫 (広島大)

- G13 海洋化学・大気水圏 (全般)
植松光夫 (東京大), 濱健夫 (筑波大)
- G14 固体地球化学 (全般)
折橋裕二 (東京大), 大野剛 (学習院大), 角野
浩史 (東京大)
- G15 固体地球における水とその役割
岩森光 (東工大), 小木曾哲 (京都大), 石橋純
一郎 (九州大), 野口直樹 (東京大), 益田晴恵
(大阪市大)
- G16 地球化学の人文科学への応用
丸岡照幸 (筑波大), 北川浩之 (名古屋大), 宮
田佳樹 (名古屋大), 南雅代 (名古屋大)
- G17 分析化学・物理化学
平田岳史 (京都大)

年会事務局:

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学大学院理学研究院内
2012年度日本地球化学会年会事務局
E-mail: 2012@geochem.jp

学会からのお知らせ

●第7回日本地球化学会ショートコース2012

日本地球化学会第59回年会在2012年9月11日(火)~13日(木)にかけて九州大学にて開催されます(実行委員長:吉村和久会員)。年会会期に合わせ、今年もショートコースを開催します。本ショートコースでは、地球化学を研究する上で必須となる基礎知識の包括的修得と、最先端研究に触れることによる視点の拡大、という二つの目標を掲げ、将来の地球化学を担う若手研究者の育成を目指します。講師は各分野で活躍されている5名の方々に、今年も地球化学の面白さ、重要性が実感できる講義となりました。学生だけではなく、一般の研究者の方々にとっても魅力のある講義になっておりますので、多数ご参加頂ければと思います。なお、日本地球化学会学生会員の方には、学会からの補助により参加費が割引となります。詳しくは地球化学会ホームページあるいは平田までお問い合わせください。

受付方法、会場までのアクセス法などについては、決定次第、ホームページを通じてお知らせいたします。よろしく願いいたします。

(京大院理・平田岳史)

第7回日本地球化学会ショートコース講演プログラム
9:30~9:35【はじめに】

平田岳史（京都大学）

9:35~10:55【講演1】

もうひとつの二酸化炭素問題：「海洋酸性化」を太古の海からさぐる

原田尚美（海洋研究開発機構）

10:55~12:15【講演2】

ミクロンサイズの鉱物から迫る地球・惑星の進化

飯塚 毅（東京大学大学院理学研究科）

13:15~14:35【講演3】

同位体比を用いた古環境変動解析

丸岡 照幸（筑波大学大学院生命環境科学研究科）

14:35~15:55【講演4】

マルチプルツールと沿岸海洋の地球化学

張 勁（富山大学大学院理工学研究部）

16:10~17:30【講演5】

Basic Presentation Skills in English

Huixin Liu（九州大学大学院理学研究院）

17:30~17:40【Closing】

(1) 開催日時・場所

日時：平成23年9月10日(月) 午前9時30分~夜6時頃
まで（日本地球化学会年会開催日：2011年9月
11~13日）

ショートコース会場：九州大学箱崎キャンパス文系地区
区（詳細は決定次第、ホームページ等でお知らせ
します）

会場へのアクセス方法については、年会ホームペ
ージをご覧ください。

年会ホームページ：

<http://www.geochem.jp/meeting/index.html>

(2) 参加費

3,000円（講師謝金費、資料代、弁当代等を含む）。
当日受付で徴収いたします。但し、日本地球化学会学
生会員は学会からの補助により2,000円引とします。

(3) 申込み方法

7月頃からホームページ上で参加申し込みを受け付
け開始します。以下のサイトから申し込みファイルを
ダウンロードし、必要事項を記入の上、お申し込み下
さい。

[http://www.kueps.kyoto-u.ac.jp/~web-geochem/
Home.html](http://www.kueps.kyoto-u.ac.jp/~web-geochem/Home.html)

(4) 定員・申込締切

50名（先着順）。9月3日(月)を参加申込締切日とし
ますが、定員になり次第、参加申し込みを締め切らせ
て頂きます。主として本学会の学生会員を対象としま
すが、非会員の方の参加も歓迎します。

(5) お問い合わせ

不明な点などございましたら下記連絡先までメール
でお問い合わせください。

平田岳史（京都大学大学院理学研究科）：

hrt1@kueps.kyoto-u.ac.jp

●2012年度第2回鳥居基金助成の募集

2012年度第2回鳥居基金助成の応募の締め切り
は、2012年7月31日（消印有効）となります。本学会
ホームページに応募要項がありますので、ご参照の
上、応募書類を提出して下さい。なお今回の助成の対
象は、2012年10月から2013年9月までの1年間に実施
される海外渡航及び国内研究集会となりますのでご注
意下さい。

<http://www.geochem.jp/prize/torii.html>

申請手続

応募者は、学会ホームページからダウンロードした
申請書（(1)-Aまたは(1)-B）を所定の期日までに下
記に提出して下さい。参考となる資料（海外派遣につ
いては業績リストおよび学会参加の場合は学会概要
等、国内研究集会については集会の案内・概要等）を
添付して下さい。なお、海外渡航により国際学会等
での研究発表を行う場合は、申請書の「研究の概要・
経費の支援を必要とする理由」欄に、渡航にあたって
の抱負や発表する論文の内容・重要性、なぜ鳥居基金
の補助を必要とするかについて記載して下さい（様式
が改訂されていますのでご注意ください）。また、海
外派遣に関しては、他の研究助成金との重複受給は認
められておりませんので、ご注意下さい。

提出先：

豊田 栄（庶務幹事）

〒226-8502 横浜市緑区長津田町4259

mailbox G1-26

東京工業大学大学院総合理工学研究科

環境理工学創造専攻

Phone：045-924-5559, Fax：045-924-5559

E-mail：affairs@geochem.jp

評議員会議事録

●2012年第1回日本地球化学会評議員会議事録

日時：2011年2月11日(土) 12:00~17:30

場所：東京工業大学大岡山キャンパス石川台2号館
315号室

出席者：吉田会長，山本副会長，清水監事（オブザーバー参加），板井，岩森，小畑，折橋，下田，高橋，谷水，谷本，角皆，原田，日高，平田，益田，丸岡，南，冢本，横山，豊田の各評議員

欠席者：植松，川幡，佐野評議員

1. 会長挨拶

「会員」「活動」「国内連携」「国際連携」の各項目について，今期の課題と活動方針が示された。

2. 審議事項

2.1. 議事録の承認手順について

前期と同様に，今期もメールにて回覧，評議員会で承認（読み上げは省略）することが確認された。

2.2. 評議員の追加委嘱について

2011年度第4回評議員会後の新評議員会合で提案された，豊田栄会員に評議員を委嘱する件について，役員選出細則第6条3「評議員の追加選出」に基づき2012年1月1日付けで承認した。

2.3. 国際文献印刷社との2012年度契約（業務委託，年会関連，HP制作）が承認された。

2.4. GJ出版に関わるテラパブとの2012年度覚書について，文言の微修正の後，承認された。

2.5. 2012年度学会賞等選考委員長，鳥居基金委員長，名誉会員推薦委員が承認された。

2.6. 学会パンフレット改訂について（原田広報幹事）

5~6月の国内・国際学会での配布に向けての改訂案が示されたが，時間と費用をかけて抜本的な改訂をすべきとの意見が出され，今年は微修正にとどめるかどうかを含め，広報委員会で再検討することとなった。

2.7. JSPS 育志賞，文科省科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞候補者，若手科学賞候補者推薦依頼の扱いについて（前期評議員会からの申し送り事項）

会員からの推薦に基づき，候補者を会長，副会長が決定し，評議員会（メール会議含む）で承認する

こととした。

2.8. 地球惑星連合大会プログラム委員の選定について（前期評議員会からの申し送り事項）

学会とコンビナーの橋渡し役，本会主催のセッション（今年は2件）に対する共催問い合わせへの対応などを行う，プログラム委員の選定方法を明確にした。3名の委員を置き，任期3年，毎年1名交代とし，2月の評議員会にて承認する。今年はいままで委員を務めてきた角皆潤会員が小畑元会員と交代することが提案され，承認された（他の2名については下田玄，鈴木勝彦両会員が継続）。

2.9. 国際文献が保管している和文・英文誌在庫の処分について（豊田庶務幹事）

保管料の節減効果，電子化に伴う必要性の低下を考慮し，ハードカバーで製本されたGJと和文誌（39巻まで），古いNewsやDVDなどについて廃棄処分することが提案された。メールニュースで通知し，希望者に譲渡した上で，残りを処分することとした。また，ソフトカバーのGJ，和文誌は，5部（ただし過去3年分は30部）保管，年会要旨集は1冊ずつ保管し，残りは処分することが承認された。

2.10. GJ 賞選考について

共著者数が多い受賞論文に対して，従来どおり著者全員に楯を授与すべきかどうかについて議論し，論文に対して楯を1個，著者全員に賞状を授与することとした。あわせて，例年受賞者の決定が遅れて Goldschmidt 国際会議での表彰式出席や受賞者記念講演が困難となっている問題について，その改善策が議論された。今年の掲載論文を対象とするGJ賞選考スケジュールについては冢本編集委員長が検討し，必要があれば受賞者選考細則を改訂する。

2.11. 広告募集について

和文誌，ホームページ広告の申込みが少なく，学会収入の減少が危ぶまれることから，積極的に企業に依頼をしていく必要性が確認された。庶務幹事の業務を低減するため，企画幹事が年会LOCと連携して展示企業に勧誘することとした。

3. 報告事項等

3.1. 庶務（豊田幹事）

3.1.1. 各種委員会等のメンバー決定について（敬称略）

(1) タスクフォース：吉田主査

学会組織改革 TF：副会長2名体制その他の組織改革について検討し、必要に応じ規則改正案をまとめる。山本副会長（副査）、板井、植松、下田、角皆、丸岡の各評議員

Goldschmidt 国際会議（GC）開催検討 TF：開催場所、開催時期、共催をするか否か、共催の場合の日本の役割等について検討する。平田（副査）、益田、佐野の各評議員および鈴木勝彦、上野雄一郎の各会員

(2) 将来計画委員会：山本委員長の下に3つのワーキンググループ（WG）を置く

将来計画 WG：出来る限り若い会員に10年後の学会のあり方を想定して頂き、学会の変えるべきところ、取り入れるべきところを提案・議論する。山本副会長（主査）、丸岡（副査）、板井（副査）、平田、日高の各評議員および川口慎介、瀬戸蘭美、大塚高弘の各会員

Geochemical Journal（GJ）出版 WG：GJ 出版に関して来年度から新しい契約に入るためテラ学術図書出版と調整し、新しい契約書の作成を行い、本年の総会にて承認を得る。また、DOI 取得と公開や将来のオープンアクセス化当についても議論を行う。山本副会長（主査）、折橋（副査）、高橋、谷水、谷本の各評議員および鍵裕之会員

法人化 WG：近い将来法人化すべき時に慌てないように、準備を含めて議論を進める。山本副会長（主査）、川幡（副査）、小畑の各評議員

3.1.2. 協賛、共催、後援

第17回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会（2011年6月16～17日、廃棄物資源循環学会など主催、川崎市、後援）、地熱学会平成23年学術講演会（2011年11月9～11日、指宿市、協賛）、第18回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会（2012年6月14～15日、地盤工学会など主催、さいたま市、後援）、第49回アイソトープ・放射線研究発表会（2012年7月9～11日、東大農学部、共催、運営委員：村松会員）、国際火山学地球内部化学協会2013年学術総会（IAVCEI 2013 Scientific Assembly, 2013年7月20～24日、日本火山学会主催、鹿児島市、後援）。

3.1.3. 引継幹事会（2011年12月18日(日) 12：00～15：30、東大理学部）

海老原前会長、三澤、丸岡、鍵、谷水の前幹事、吉田現会長、山本現副会長、川幡、原田、下田、平

田、南、豊田の現幹事が出席して引継事案の確認等を行った。

3.1.4. メール審議

「TF 設置について」（2012年1月10日、会長提案）および「学会からのお知らせ「大震災関連」(8) について」（2012年1月20日、会長提案）が評議員会に先立ちメールで審議され、承認された。3.1.5. 2012年第1回幹事会（2011年2月4日(土) 12：00～17：05、JAMSTEC 東京事務所）

吉田会長、山本副会長、塚本・GJ 編集委員長、高橋・和文誌編集委員長、川幡、下田、原田、平田、南、豊田の各幹事が出席し、第1回評議員会の議案整理を行った。

3.1.5. 学会賞、鳥居基金の推薦、応募について

1月31日に締め切った。学会賞1件、奨励賞3件、功労賞1件の推薦と、鳥居基金6件の応募があった。

3.1.6. GJ 賞について

佐野前編集委員長が候補者を選考中、学会賞等賞者選考委員会に送付予定。

3.1.7. 広告・協賛企業申込

協賛企業（ホームページ広告およびメールニュース広告）：三洋貿易（新規）、テラパブ、オーレック（継続、確認中）

和文誌「地球化学」：フリッチュ・ジャパン（1～4号）、大陽日酸（2, 4号）

3.1.8. 2011年度の広告費請求

「地球化学」：4号分まで済（三澤前幹事）。

HP：オーレック（4月～）とテラパブは済み（テラパブはGJ 売上金と合算予定）。

3.1.9. 科研費（GJ 研究成果公開促進費）状況報告書、実績報告書（三澤前幹事が対応予定）

3.1.10. 日本学術会議男女共同参画分科会アンケート調査への回答、日本化学連合第5回シンポジウム「共に生きよう 世代を超えて—今後の日本の科学技術・教育を考える」と交流会の案内

3.1.11. 今後の幹事会・評議員会予定

第2回幹事会：5月（地球惑星科学連合大会期間中）、第2回評議員会：6月（メール会議）、第3回幹事会：9月1日(土)、第3回評議員会：9月10日 13：00 九州大学

3.2. 広報（原田幹事）

3.2.1. 今期広報委員（大木淳之、乙坂重嘉、小畑元、下田玄、鈴木勝彦、平野直人、三村耕一、山下

勝行, 山口耕生の各会員および川幡ニュース幹事, 山本副会長) の紹介

3.2.2. 学会ホームページ (HP)

新年度の更新がほぼ終了した。中規模の改訂を検討している。学会ニュースや HP へ情報提供する際の書式はテキスト形式 (メールのベタ打ち可) でお願いしたい。業者の HP 広告を募集しているので, 協力をお願いする。HP 広告掲載企業 (協賛企業) はニュースメールによる広告配信も可能となっている (年12回まで)。

3.2.3. 講師派遣事業

2012年2月現在の派遣講師登録は48名, 派遣依頼1件 (埼玉県上尾市立西中学校, 瀧上豊会員を2月に派遣予定)

3.2.4. 学会ブース

連合大会 (5月) は2スパン申請中, GC 2012 (カナダ・モントリオール, 6月) は申請準備中。年会 (九州大, 9月) は「地球と宇宙の化学事典」の出版が間に合えばブースを出す予定。

3.2.5. その他

学会パンフレット, ショートコースパンフレットを連合大会の本会主催・共催セッションの会場入り口に置く。GC 2012での学会パンフレット配布について交渉予定。

3.3. 企画 (平田幹事)

3.3.1. 2012年日本地球惑星科学連合大会 (5月20~25日, 幕張メッセ)

参加登録受付中, 要旨投稿は2/17締切。本会が活動支援してきた「固体地球化学・惑星化学」(固体地球化学セッション: コンピナー下田, 鈴木(勝), 山下会員) に加え, 今年から「地球化学の最前線」(領域外・複数領域セッション: コンピナー高橋, 平田, 角皆, 鍵, 鈴木, 横山(祐), 横山(哲), 小畑, 橘会員) が新たに立ち上げられた。

3.3.2. 2012年 Goldschmidt 国際会議 (6月24~29日, カナダ・モントリオール)

要旨投稿は受付終了, 参加登録は4月20日締切。本会は協賛金 (\$3,000) を支援する予定。本会会員は登録費割引 (100ドル) がある。学会公式ホームページ (home) には本会のロゴは掲載されていないが, Partners' section に掲載される予定。

3.3.3. 第59回日本地球化学会年会 (2012年9月11日(火)~13日(木), 九州大学)

2月14日に実行委員会 (委員長: 吉村和久会員)

が開催され基本方針が決定される。学会 HP に概要を掲載予定 (広報担当: 石橋委員, 栗崎委員)。年会前日にショートコースを開催予定。講師は, 原田, 丸岡, 飯塚の各会員他2名 (交渉中)。連合大会までにプログラムを決定し宣伝する。

3.3.4. その他

鍵前企画幹事から連合大会の総務委員, ショートコース企画運営, 横浜国立大学 CST (コアサイエンスティーチャー) プロジェクトの支援について引き継ぎ行った。

3.4. 会員 (下田幹事)

会費納入期限 (1/31) 以降, 会費未納者に対して督促請求のための手紙を送付予定 (3月及び6月) であること, 2回目の納入期限は, 例年7月31日であることが報告された。また, 会員数の年齢分布が報告され, 最年少19歳, 最高齢94歳で高齢側に広い裾野をもつ分布であることが示された。本会として, 若年層 (10~20代) や海外の会員を増やす努力をしてはどうかとの意見が出された。

日本地球化学会会員数 (2012年1月31日)

会員種別	人数	契約口数	GJ 冊子希望	GJ 冊子不要
一般正会員	727		307	420
学生正会員	127		69	58
うち, 学生バック	(33)		(16)	(17)
シニア正会員	58		30	28
賛助会員	10	10	9	1
名誉会員	11		6	5
合計	933		421	512
(寄贈)			17	
(GJ 発送総数)			438	

会員異動 (2011/09/01~2012/01/31)

【入会】

(9月)

会員番号	会員名	会員種別
9282686	前田俊介	学生バック
9282709	得丸絢加	学生バック
9282754	高野祥太郎	学生バック
9282755	氷上 愛	学生バック
9282762	川崎教行	学生バック
9282770	小森昌史	学生バック
9282773	江本真理子	学生バック
9282775	Mikhail Vasilev	学生正会員
9282776	宮地俊作	一般正会員

9282779 野坂裕一 学生パック
 (10月)
 9282780 牧田寛子 一般正会員
 (11月)
 9282777 大森裕子 一般正会員
 (12月)
 なし

(1月)
 9282781 鹿兒島涉悟 学生正会員
 9282782 木村裕也 学生正会員
 9282783 長谷和磨 学生パック
 9282784 尾上哲治 一般正会員
 9282785 加藤ともみ 学生パック
 9282786 長島佳菜 一般正会員
 9282787 清水美早 学生パック
 9282789 三洋貿易株式会社 賛助

【退会】

(11月)
 会員番号 会員名 会員種別 備考
 2280406 小坂丈予 シニア正会員 2011/11/23逝去
 6280549 杉原 健 シニア正会員 2011/11/25逝去

(12月)
 9282577 出水 翔 学生正会員 2010年度会費未納
 9282590 馬瀬 輝 学生正会員 2009年度会費未納
 4281746 井上 元 一般正会員 2010年度会費未納
 281294 平井昭司 一般正会員
 1281576 矢吹貞代 一般正会員
 1282092 村中 健 一般正会員
 4281791 寺井久慈 一般正会員
 6281281 溝田智俊 一般正会員
 7281273 近藤 寛 一般正会員
 8281469 吉田武義 一般正会員
 9280322 宮崎 章 シニア正会員
 9280902 田上英一郎 一般正会員
 9282388 渡部慎一 一般正会員
 9282394 荒川 雅 一般正会員
 9282410 小竹翔子 一般正会員
 9282489 代田里子 学生正会員

9282554 柏山祐一郎 一般正会員
 9282611 小澤 萌 学生正会員
 9282654 柘植研一 一般正会員
 9282663 中村明博 一般正会員
 9282679 西本礼香 学生パック
 9282681 松本祐介 学生パック
 9282708 斎藤直樹 学生パック
 9282719 大木可奈子 一般正会員
 9282722 奥地拓生 一般正会員

(1月)

281164 今井 登 一般正会員
 1282274 本郷やよい 一般正会員
 3282087 吉田崇宏 一般正会員
 8281652 塚原弘昭 一般正会員
 9280742 根建心具 一般正会員
 9282634 近本めぐみ 一般正会員
 9282666 片岡良輔 学生パック
 9282667 伊藤由喜 学生パック

【会員種別変更】

(11月)

会員番号	会員名	変更前	変更後
1280588	田中 剛	一般正会員	シニア正会員
2280150	石渡良志	シニア正会員	名誉会員
3280595	高岡宣雄	シニア正会員	名誉会員
4282198	柴田信之介	学生正会員	一般正会員
6280680	脇田 宏	シニア正会員	名誉会員

(12月)

会員番号	会員名	変更前	変更後
9282400	宮川和也	学生正会員	一般正会員
9282508	松岡かおり	学生正会員	一般正会員

(1月)

会員番号	会員名	変更前	変更後
9282658	濱崎 浩	学生パック	学生正会員
9282659	河野麻希子	学生パック	学生正会員
9282662	横山由佳	学生パック	学生正会員
9282668	城森由佳	学生パック	学生正会員
9282669	太田祥宏	学生パック	学生正会員
9282670	磯山陽子	学生パック	学生正会員
9282671	高橋幸士	学生パック	学生正会員
9282675	グティージュ フォン	学生パック	学生正会員
9282678	吉村寿紘	学生パック	学生正会員
9282680	深井 恵	学生パック	学生正会員

9282684	吉田知紘	学生パック	学生正会員
9282685	森島 唯	学生パック	学生正会員
9282688	関谷朋子	学生パック	学生正会員
9282689	森脇絵美	学生パック	学生正会員
9282690	山本真里子	学生パック	学生正会員
9282691	今井崇暢	学生パック	学生正会員
9282693	窪田 薫	学生パック	学生正会員
9282694	尾崎和海	学生パック	学生正会員
9282695	片山樹里	学生パック	学生正会員
9282696	岡林識起	学生パック	学生正会員
9282697	山崎香奈	学生パック	学生正会員
9282700	山中康平	学生パック	学生正会員
9282701	村井彰宏	学生パック	学生正会員
9282702	吉田 怜	学生パック	学生正会員
9282703	佐野和広	学生パック	学生正会員
9282704	太田朋子	学生パック	学生正会員
9282705	高田理恵	学生パック	学生正会員
9282706	丸山浩司	学生パック	学生正会員
9282710	福田美保	学生パック	学生正会員

【除名】

会員番号	会員名	会員種別
1280629	堤 克彦	一般正会員
8281168	今井嘉彦	一般正会員
8281599	Jedrysek, Mariusz O.	一般正会員
9282331	早津岳宏	一般正会員
9282374	Fu, Ching-Chou	学生正会員
9282418	荘山英敏	学生正会員
9282420	塚本英智	学生正会員
9282448	江守建太	学生正会員
9282495	白石智一	学生正会員
9282502	竹谷 裕	学生正会員
5280096	平木敬三	シニア正会員

3.5. 会計（南幹事）

谷水前会計幹事から引継ぎ中であること、今年度の評議員旅費、幹事経費の支給方針について報告があった。2月の幹事会および評議員会を同日開催とすることで旅費を削減できるのではないか、との意見が出された。

3.6. 和文誌「地球化学」（高橋編集委員長）

3.6.1. CiNii での創刊号以降の全文公開開始

国立情報学研究所（NII）の論文情報ナビゲータ CiNii（サイニイ）において、和文誌の創刊号～40

巻4号までの論文 PDF がオープンアクセスとなった（http://ci.nii.ac.jp/organ/journal/INT100004240_ja.html）。41巻1号～44巻4号は掲載準備中、45巻1～2号は掲載済み（ただし、発刊後2年間以内なので非公開）。

3.6.2. 新編集委員の報告

12月末で一部委員交代（編集長に準じ、委員の任期も2年を目安とした）。今期の編集委員は井上麻夕里、小畑元、小木曾哲、高野淑識、田中万也、谷水雅治、松本潔の各会員。

3.6.3. 発刊予定

【2012年 Vol. 46, No. 1】

企画総説「地球化学の最前線」：吉村寿紘，谷水雅治「炭酸カルシウムの Ca, Mg 安定同位体分別」
日本地球化学会奨励賞受賞記念論文：中村謙太郎「海底熱水系における水-岩石反応の地球化学」
報文：猪狩俊一郎「油ガス田地域（新潟）と非油ガス田地域（茨城・群馬）における軽質非メタン炭化水素濃度の比較Ⅱ，1994年～1999年冬季」

報文：尾崎宏和，油谷有紀，鈴木大輔，渡邊 泉「奄美大島表層土壌における高レベル有害元素濃度および生物可給リスク」

【2012年 Vol. 46, No. 2】

東北東日本大地震関連ミニ特集

地球化学会としての取り組み（主に放射能調査）：
海老原（首都大），今回の地震の特徴について：
加藤愛太郎（地震研），放射能の陸域・海洋への飛散：鶴田治雄（東大大気海洋研），企画総説1件（検討中）

【2012年 Vol. 46, No. 4】

特集号「地殻流体」（編集担当：小木曾哲，横山哲也，岩森光）

【2013年について】

2013年は地球化学会50周年（前身の地球化学研究会から数えて60周年）となるので、「地球化学会の歩み」を書いて下さる方を探している。また、はやぶさ関連の特集号の案あり。

3.6.4. 今後2年間の課題

(1)GJの表紙変更に伴う、「地球化学」表紙の改変検討，(2)インパクトファクターを付与するための作業，(3)支出超過（2011年，約20万円）の改善，(4)論文投稿数の減少，が報告された。(2)についてはGJの被引用数が増える効果が期待できるとの意見，(3)についてはページ超過やカラーページに対し

てページチャージを徴収すべきとの意見が出された。

3.7. GJ (坂本編集委員長)

3.7.1. 発行・編集状況 (2月2日現在)

2011年 Vol.45, No. 6は2012年1月に発行され、2012年 Vol.46, No. 1は2月に発行予定。投稿受付が2011年12月31日までの論文を佐野前編集委員長、2012年1月1日以降の論文を坂本委員長がそれぞれ取り扱う。投稿数は14報、うち受理0、却下1、審査中10、AE選考中3、取り下げ0となっている。2011年ゴールドシュミット会議「Fukushima Review」および第58回年会「災害による環境汚染および復興の地球化学」に基づく特集号の提案(海老原(首都大)、吉田(東工大)、高橋(広島大)の各会員)を受け付けた。

3.7.2. その他

副編集長として鍵(東大)、角皆(北大)、Kumar(静大)、Fagan(早大)の各氏を選出したとの報告があり、承認された。天川、平田、Dalai各氏がAEを辞退したことから、AEの補充を検討している旨の報告があった。

3.8. 学会組織改革 TF (吉田会長)

TF設置の趣旨が吉田会長、山本副会長から説明された。今後TFが作成する素案をもとに、評議員会でも議論していくことを確認した。

3.9. GC開催検討 TF (吉田会長)

趣旨説明の後、2016年または2020年のGC開催地として日本が立候補することの是非、2016年の中国との共催の可能性について意見交換を行った。

3.10. GJ出版WG (山本副会長)

1月28日(土)にテラ学術図出版社の担当者も出席して開かれた第1回WG会合についての報告があった。GJ冊子体を有料とする案について、販売価格の妥当性や会則変更の必要性についての意見が出された。

4. その他

4.1. 「学術情報発信緊急説明会」および科研費「研究成果公開促進費」改善に関する文科省意見交換会について

川幡評議員から提供された資料をもとに、地球惑星科学連合が計画しているジャーナルに対してGJをどのように位置づけて出版助成の申請をするべきかについて、意見交換を行った。情報収集の必要性和状況に応じた速やかな決断が迫られる可能性について確認し、今後の議論はGJ出版WGで行うこととした(川幡評議員にWGメンバー参加を依頼予定)。2月17日に開かれる連合の緊急説明会には会長代理として折橋評議員(兼WGメンバー)が出席することになった。

(庶務幹事・豊田 栄)

(上マージン 31 mm)

40 mm

25 mm

(左マージン 22.5 mm)

190 mm

20 mm

165 mm

(下マージン 30 mm)

(右マージン 22.5 mm)

講演番号用空欄
(何も記入しない)

講演題目 (左詰めで記入下さい)
○地内化学¹、海元素子¹、同位大気² (左詰めで記入下さい)
(¹○○大□□研、²○○大院△△)

要旨作成上の注意

- 1) フォントはできるだけ明朝体を使用して下さい。
- 2) 原稿は B5 版で印刷されます。文字が小さくなりすぎないように注意して下さい。
- 3) 範囲を示す点線の枠は不要です。
- 4) A4 用紙に上 31 mm、下 30 mm、左 22.5 mm、右 22.5 mm のマージンを設定して下さい。
- 5) 研究題目、発表者、ならびに所属は例に準じて記入し、講演者の左側に○印を付けて下さい。下部の英文表記についても同様です。
- 6) 左上の講演番号用空欄は必ず空けて下さい。
- 7) PDF ファイルのファイル容量は 400 kb 以内となるようにして下さい。
- 8) 一般講演は 1 ページ、招待講演は 2 ページ以内です。
- 9) PDF ファイルの原稿は必ずプリント出力で確認して下さい。
- 10) 講演要旨提出の締め切りを厳守して下さい。

Title of Presentation in English
○K. Chiuchi¹, M. Umimoto¹, and T. Doi² (¹□□ Institute, ○○ Univ.,
²△△ School, ○○ Univ.)

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会、書評、研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上、電子メールでの原稿を歓迎いたしますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2012年9月頃を予定しています。ニュース原稿は7月下旬までにお送りいただくよう、お願いいたします。また、ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会ニュース・HP 幹事）

川幡穂高

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5
東京大学大気海洋研究所
海洋底科学部門

Tel : 04-7136-6140

E-mail: news-hp@geochem.jp

原田尚美

〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町2-15
海洋研究開発機構（JAMSTEC）
地球環境変動領域

Tel : 046-867-9504 / Fax : 046-867-9455

E-mail: news-hp@geochem.jp